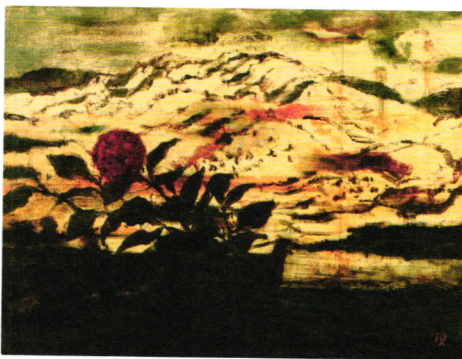




1



2



3



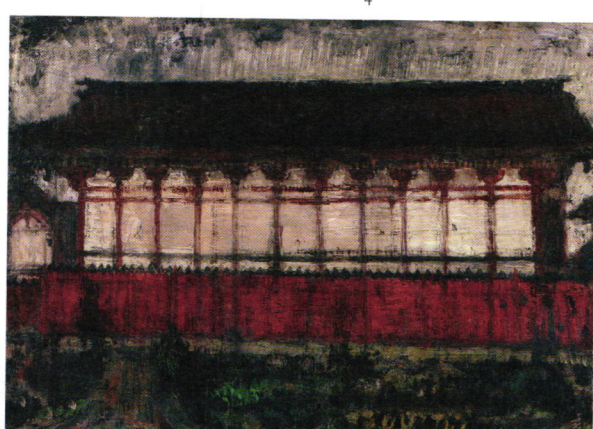
4



5



6



7

1.《サグント劇場跡》三之瀬御本陣芸術文化館蔵 1922年〜23年、2.《サグント》(写真) 三之瀬御本陣芸術文化館蔵、3.《椿》姫路市立美術館蔵 1932年、4.《山姥》京都国立近代美術館蔵 1948年、5.《犬》東京国立近代美術館蔵 1950年、6.《八幡平》京都市美術館蔵 1954年、7.《鐘八幡》東京国立近代美術館蔵 1955年

洋画家・須田国太郎(1891-1961)は、「東西の絵画の総合」という壮大なテーマを掲げ、日本の精神文化に根差した日本本来の油彩画のありかたを追求し、近代絵画史に偉大な足跡を残しました。

京都に生まれ幼少時から絵画に親しんだ須田は、「東洋と西洋では、なぜ絵画が異なる方向で発達を遂げたのか?」という疑問を解明するために、京都帝国大学及び同大学院で美学・美術史を学びました。大学院に在学中には「絵画の理論と技巧」を研究テーマとし、同時に関西美術院でデッサンを学んでいます。

1919年28歳で渡欧し、スペインのマドリッドを拠点にヨーロッパ各地を訪れ、ヴェネツィア派の色彩理論やバロック絵画の明暗法など西洋絵画の底流をなすリアリズムの表現に関心を持ち、探求しました。1923年に帰国して、日本独自の油彩画を生み出そうと制作に励み、1932年41歳の時に初個展を開催しました。これを契機として、ヨーロッパ留学中に交流のあった里見勝蔵や川口軌外の誘いにより1934年に独立美術協会会員となりました。これ以後須田は、同協会展を活動の舞台とし、意欲的な作品を発表していきます。骨太で生命感溢れる作品群には、会得した理論に裏付けされた風格さえも宿しています。

本展では第1章として須田国太郎の初期から晩年までの「画業の歩み」を紹介。第2章は「旅でのまなざし」として須田自身が滞在中に撮影した写真と関連する油絵、さらに国内の風景を描いた作品を紹介。第3章では「幽玄へのまなざし」として幼少時より親しんだ能・狂言の世界を描出した作品を展示。第4章では「真理へのまなざし」として須田が造形上の芸術的真理を追求した代表的な「黒の絵画」を核とした絵画作品と、学術的な真理の追求として発表した芸術論の著作を紹介しています。また、須田がデザインに注目して蒐集した「グリコの玩具」や愛用のカメラなどの遺品も併せて展示し、須田国太郎芸術の新たな魅力を検証します。

関連イベント

①講演会

「京都の洋画家須田国太郎」

講師 | 中谷至宏氏(成安造形大学特任教授、

京都市美術館/元離宮二条城事務所学芸アドバイザー)

日時 | 3月17日(日) 14時〜15時30分

定員 | 100名

申込方法 | 2月18日(日)午前9時より

電話(0798-33-0164)にて受付(先着順)

②スライドトーク

「展覧会解説 須田国太郎の芸術」

講師 | 枝松亜子(当館学芸課長)

日時 | 3月24日(日) 14時〜14時30分

※申込不要

③第189回

オータニミュージアムコンサート

「チェロ&ピアノ デュオリサイタル」

出演 | 小棚木優(チェロ)、大西真衣(ピアノ)

日時 | 4月7日(日) 14時〜15時20分

定員 | 100名(小学生以上)

申込方法 | 3月17日(日)午前9時より

電話(0798-33-0164)にて受付(先着順)

④ワークショップ

「須田さんが描いたお能って? お能体験会」

須田国太郎が幼少時から親しんだ能・狂言。須田は、デッサンをはじめとした、多くの能に関連する作品を残しています。今回のワークショップでは、作品に描かれた能の動きや、話などを実際に体験していただきます。

講師 | 上田顕崇氏

(一般社団法人瓦照苑 能楽観世流シテ方)

日時 | 3月31日(日) 14時〜15時

定員 | 15名

対象年齢 | 小学生 *保護者の同伴が必要

参加費 | 200円

申込方法 | 往復ハガキ(〒662-0952 西宮市

中浜町4-38)またはメール(otaniws@otani

museum.jp)に、参加者全員の氏名・年齢・

住所・電話番号を明記。「ワークショップ」係

まで。3月14日(木)必着。

応募多数の場合は抽選

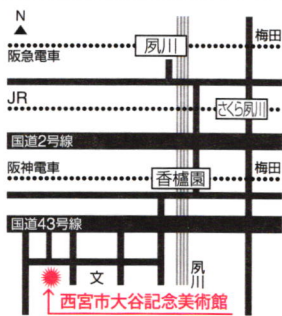
※各イベントとも別途入館料が必要です。
※申込方法、詳細は当館公式HPをご参照ください。

交通のご案内 | 阪神電車「香櫨園」駅南西徒歩6分(近鉄沿線の方は、大阪難波経由阪神なんば線利用)、JR「さくら夙川」駅南西徒歩15分、阪急電車「夙川」駅南西徒歩18分
※美術館専用駐車場は15台分しかありませんので、できるだけ電車など他の交通機関をご利用ください。

新型コロナウイルス感染状況等により、本展の会期や内容の変更、または臨時休館をする可能性があります。最新の情報は美術館ホームページ等でご確認をお願いします。

〒662-0952 西宮市中浜町4-38
tel.0798-33-0164 <http://otanimuseum.jp>

西宮市大谷記念美術館
Otani Memorial Art Museum, Nishinomiya City



須田 国太郎の 芸術

生誕130年
没後60年を越えて

三つの
まなざし
絵画・スペイン・能狂言

2024
3.2[±]—4.21^日

Art of Suda Kunitarō —Three Gazes—
Beyond the 130th Birth Anniversary and the 60th Death Anniversary

休館日 | 水曜日、3月20日(水・祝)は開館、21日(木)は振替休館

開館時間 | 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料 | 一般1,200円、高大生600円、小中生400円

※前売料金は各200円引き 団体料金(20名以上)は各100円引き、いずれも税込価格

※前売券はローソン Loppi(LコードS4206)または当館にて販売 3月1日(金)まで

※西宮市内在住の一般の方は1,000円、西宮市内在住65歳以上の方は600円

(いずれも要証明書呈示)

※ココロカード・のびのびパスポート呈示の小中生は無料

※心身に障害のある方および介助者1名は無料(要手帳等呈示)

主催 | 公益財団法人 西宮市大谷記念美術館

共催 | 公益財団法人 きょうと視覚文化振興財団

後援 | 西宮市、西宮市教育委員会

《鵜》 京都国立近代美術館蔵 1952年 油彩・画布

西宮市大谷記念美術館
Otani Memorial Art Museum, Nishinomiya City

